

R18

本能の海

JUJUTSU KAISEN UNOFFICIAL FANBOOK

2022.12.11 presented by Apple / Kusatta ringo
Sea of instinct

satoru gojo
×
kento nanami



この本はオメガースの世界観で描かれています。
個人的な設定を用いている為、ご注意ください。

全ての人類は、従来の男女性とは別に
三つに分類される“第二の性”——ベース性を持って生まれる。

α (アルファ)

現世界では比較的等級の高い呪術師、呪術師がこれに該当する。
呪力の高い♂と交配すれば高確率で自身の遺伝を受け継いだ子を成せる。

β (ベータ)

人類の大半を占める。呪力の低い者、非呪師がこれに該当する。

ω (オメガ)

他の二種に比べて数が少ない希少種。
呪術師の家系では当主は必ず♂を伴うとし舊式の継承を担ってきた。

五条と七海は共に α (アルファ)性です。

七海建人

等級 一級相当

生得術式 十圓呪法

西暦一九九〇年七月三日生まれ
都内在住の一般家庭出身

中学時代、高専編入による
スカウトを経て明倫高専へ入学

卒業後は一般大学へ編入し
その後、株式会社○○證券に入社

三年後に同社を自己都合で退社
——以後現在に至る

性別 男性

第二の性

..... × × ×



どれ程
人を殺すのに慣れても

愉悦を感じたことば
只の一度もなほ

七海





その

声は



おはよ

よく眠れた？

なーなみつ

ごきげんよう、おはようございます。

甘々たるい香り……

……日記々あるまいし





お蔭様で

あまり良い目覚めとは言えませんが！

体と魂の痛み



呪力覚醒した
四柱の拘束



目の前に
呪術師最強の男



おはようございます

おのれに近づくな

寝起きで状況の把握が
できないから早々に
ネタパレしちゃうけどね

こゝは高専じゃなくて
五葉家の敷地内



……五葉家



呪術を使うには
気が固くっていけないよ

そんな呪術すんなって
眼を迫って説明するからさ

あーはいはい

……どういふことですか？
期待された呪術師は
直ちに高専に移送され、厳重な
監視下に置かれる筈……

それに……



その手口は彼等日頃の妙
過去に高専が及び所けた術師も
早く逃げ去らにじているね

まさに夏前夜に襲ぐ
高専出身の上級呪術師で
同時に呪術界上層部にとつて
冠をな目の上の瘤

現状
呪術師七動疑人
非術師に対し故意による
術式発動及び殺害行為

報告されている被害者数は
確認できているだけでも
二〇二一年で凡そ27名

……それを言うなら
アナタもでしょう

アッハハ！
そうかもねー(笑)
ま、改めて……

オマエは立ち回りが良い上に毎回
戦績を隠すのも上手いから僕一人で
足取り刺むの相も当苦勞したんだよ？

何を隠してるのか知らないけど
上の連中が頭なにおマエに因する
捜査資料を僕に開示しようとしなくてね

現にこうしてオマエを
高層より先に捕まえるのに
随分と時間を要した

五葉さんを私の件に
関わらせなかった
上層部の意図も理解できる

過去の私達の関係から察推して
この人が良からぬ考えを
起こすとても思っていたのだろう

ふー
それは
「苦勞」様でした

とはいえ、マナタが出てきた
となると私もどうしよう年貞の
前め時なのでしょうね

「いや、寧ろここまで
泳がせていただいたことに
感謝するべきか……」

「……」

私は彼とこの人の前で吐
き出したらしい存在

私は彼と共に高専時代を
生き抜いた数少ない存在であり

……そして僅かな周囲だが
関係を保持していたのだから





キーン？



立場を弁えられる奴は
嫌いじゃないんだけどね！

生徒と客を分けるのが
昔の先達なんだから

命だいたいやってみる
価値あるかもよ？

……冗談でしょう
それに

御自身の立場を弁えて
いらっしやるアサタには
無駄な足掻きでは？



でもこうして僕が
出てきたからには

このまま可愛い後輩を
みすみす死なせたくな
いんだよね

当然、呪術規定に基づけば
呪詛師であるオマエは
理外外所対象だ

神介業者も挟まずに単独で
働いていたオマエには
仲間について聞いて貰う時間
不要だろうし

まあ、追加するとなると
相手は結構くらいかな？



オマエが

じゃあそろそろ
本道に入りろか

……やはりか

お気持ちとは嬉しく
思いますが私は……

此の世に生きた者が……

まる固けって

僕としては秘密裏にオマエを
捕えたつもりだったけど

どっからか情報が漏れたみたいで
案の定高等は僕に詰め寄って来たよ

オマエを早く引き渡せとね

だからジジイ共の
くっせえ口塞ぐ為に

こう言っただけでやった

本能の海

「呪詛師七海建人は

既に僕の番であり」

「その腹には子を宿している」

正当な五条家の跡取り候補をね



「それを聞いた時の
アイツらの顔と言ったらさあ!!
もう……」

「番?」

「もう……」

「五条さんが?」

「は國には手
出せないみたい

「私と」

「五条家の御家問題が
絡んでるとなると

「……流石に浦中も

「あつちやー写メ撮るの
忘れちやうたよ!」

「超っつ傑作だったから!



「……なら
このうなじの痛みは
まさか!」

「あつちやう」

「偽装工作の為に
噛ませてもらったんだ

「痛い?」

「いいえ問題は
そこではなく……」



何故そのような馬鹿げた噂を...

「三斗もその性に関するデータは高専に入学する際登録されている筈」

「同士の私とアナタでは勝になり得ないことなどすぐに！」

問題ないよ

「三斗も時間稼ぎとしては十分かな」

.....

心配しなくても大丈夫

事前に伊地知と靖子に根回しして高専が保有するオマエのデータは既に改竄済みだから



「そりゃあ昔は権限の発給期間が任務に反映をきたしていた関係で高専にも絶対管理していた情報だったんだろうけど」

「あれから陣頭陣の役員も進んで今はバリエーションが生活に密着を及ぼすなんてことはほぼなくなつたから実際そこまでは確認されてはいない」

「あの定老共はオマエの等級や権限やらに注目してはかりで性に因してはノーマルじゃあなかったよ」

「途中で情報書き換えでも面白い保護も気づかないでやんの」



「僕ってば騙りになさるうー！」

「どんな小細工をしたかあるぞ」

「バレルのは時間の問題です」



「それに私のような犯罪者を脅かしたとあつてはアナタまで自らぬかりをかけられます」

「それこそアナタの大嫌いな上層部の方々に付ける罰を与えることになるのでは？」



「いくら根拠を挙げて五条件でも」

「今回ばかりは昔のウリスタが大きい」

気がかけてくれるの？
嬉しいなあ

オマエって実は昔から
僕に優しいよね！

でも

オマエが心配してるって
全部

僕にはどうだっていいんだ



……ここまで事態を
大事にして

一体どう取捨つける
おつもりで？

喝たとしても
反吐が出る

私が五郎さんの番で

この際申し上げますが
私はもう助かることなど
望んではいない

この人の子を
殺すなら殺すで
さっさと……
殺さずにいるのだと



有りもしない
空想話を

落ち首けよ七海

なに勘算してんの？

自分の命にさえ
関心を示さないオマエが

こんな「馬鹿げた嘘」
如きで？

……それとも



この感じは
思い出す

嘘とはいえ

機物を前にした時の
この人の

鼻が詰まるような

夢にまで見た
僕との「番」という関係性に

思う所でもあるのかな？

役気にも似た
αのフェロモン



……おかし

死の間でも
ないのに……

ッ、勘違いも
程々にして……だが……



体が……

ふーん？

本末豆をたけ……

死ぬ前に、身に
覚えのない疑いを
かけられるの体……



あはっ♡

御果が出てきたみたいだね！

あつ……♡

良い感度♡



効果……？

話を戻すけどね

オマエの言う通り
この嘘は所詮
その場しのぎに過ぎない

真偽がわかるまで
手を出せないとはいえ
叔らの大半がこの嘘を
信じてないのが事実

例の証人も黙示して
ないからまあ当然だよな

5/10/10

この人は……

だがこの二回が早よ

嘘を吐くには
都合が悪い

なにを

5/10/10

この僕が何の
考えもなしに

こんなことすると
思った？

僕も卒業してから
知ったんだけど

御三家には古くから
当主のみ継承される
世継ぎ問題解消の為の
秘術を有しているね

その中に

第三の性を強制的に
変えるものがある





これからその術を施して
オマエを口にする

……ツツ!!



まさか……
ここまで笑えば
もうわかるよね?



僕最強だし?

僕も初めてだから
文章を流んだ通りに
するだけなんだけど
心配しなくても
大丈夫



……じよ……ツツ

……黙ってあげる

……ツ!



オマエだってさっつきから
自分の体の変化に
気づいてるでしょ?

この部屋で笑ってる君は
αの理窟を演習するよう
割合されてあるからね!

ホラホラ、
交際したくなってきた

やめ……ツツ

このおつかをいい
ご大層なちんぽを
早くどつかのたに挿れて
調茶苦茶に脱脂りたいって



勿論

同じαである僕もね

術の概要は
簡単

オマエの腹の中一杯になるまで
僕の精子をぶち込んでさ

五条家歴代の念と呪力を
張り巡らせたこの部屋で

それを媒体にして一気に
呪力を体内に流し込む



「おれは……」

「……」

「あゝ、てかさ」

「……ッッ!!」



「やっぱ腕がせてから
縛れば良かった
願くしかないじゃん
こんなのさあ」

「……」

「やめ……ッ」

「出るまで」

「キヤッだわね
おれは……」

「……」

「……」



「……ッッ
「ケタモノが……」

「この場を支配する」



「……」

「圧倒的強者の雄」

「純粋な生類本能だよ」



同士のセックスはさ

正と白のそれに比べれば
大した快楽は得られないし
こどもを作るなんて以ての外

でも今回は違う

最終的に

アキラと白を産ませるために
即死覚悟で

アア...



ア... 欲求の...

開け口として... なら

はっ...

ア...

あ...

いくらでも
お相手します... からの...

ア...



まーたオマエは
そうやって

僕の気持ちから
逃げるのを繰り返すんだ

学生の頃から
本当変わらないよね

死ぬ覚悟はできてる、って
言ってたっけ？

じゃあ見せてよ

ア...

ういあッ

ハッ
ハッ
ハッ
ア...



あ……すいご……の
久しぶりの
七海の中だ……っ

あ……すいご……の

あ……あ……っ

あ……あ……っ





はは、なにに胸気なこと言ってるの、同じ身ならわかってる筈でしょ？

はは、なにに胸気なこと言ってるの、

完情期は

こんなもんじゃ治まらないって

アアツツ!!

あれから

なに、あ...

あ...

何時間か

はあ...

無理...です

無理だなんて嘘ばかり
まだこんな顔の出るじゃんか

それより本音が、この調子ならなあ...

て、あれや七海?

おーい七海いー 起きろー！ まだまだ入るでしょ！？

へばんなよー！ オマエの腕ん中

あ...



……アナタの……
セブラスって……

昔と全然……
変わらなぃんですね……

期待外れも
いいとみるすよ……

……正直……

……言っじやん

ほら、もっと
抱かれてよ……

オマエがそんな
男だからさあ……

アッ！

あ、あつ

ずっとヒザヒザ
してたんだよね……

僕の知らない所で
どうかの白と黒に
なつてやしないか

でもずっとフリー
みたいで良かった

これ……

心置きなく僕のものに
できる……

……

……



もっと僕の動きに
反応してよー！

上編

このまま
気絶すんなんて

おやエを組んでやる
気持がほじけんだから



それでもあの頃の私は

全てを甘んじて
受け入れていた

お疲れ様です！

家人さん



物理的な苦痛

極度の威圧感による
身体中の麻痺

あ……痛、ア……

う、ア……っ

ネ、ア……っ

「物理的な苦痛」

「極度の威圧感による
身体中の麻痺」

「物理的な苦痛」



お、来たな
玉の例イ!

アンタ五条と
デキたんだった?

よくあんなじやじや馬
乗りこなせたね

……
……久々に会う晩年に
自分と敵から仲ですね

まー州丸州丸

生徒がやない学校だ
この手のゴシップには
慣れてんだよ

でもアレだ
α……だろ?

ええ

取り立てて
おめする事は
何もし……
……とうかどこから
その情報きた?

あのバカが……んを面白いでと
誰にも言わずにいられると
思ふぞ?

……



抱え込むつもりなんて
ありませんよ

それ以上でも
それ以下でも
ありません

お互い一時の喪失感を
埋める為だけの関係ですから



灰原や豆類が
いなくなつて只でさえ
まいつている時期なのに

そんな短介半まで
抱え込んだらアンタ
潰れんじやないの



ふん?

でなければαの男同士で
つるむ必要など

一体どこに?

……その言葉通り

暫くして私から五条さんを
避けるようになり
3年生の卒業に伴つて
自然と関係は消滅した

私が卒業するまでの間
五条さんからは定期的に
連絡があつたが

全て無視した

それというのも
その頃

私達の関係が
五名家の耳にも
届いたようで

時間至上の相手が
自でもない男だということに
強い危機感を抱いた彼等は

尾巻さんの目を盗んで
私への圧力を日増しに
強めていたのだ

今思えばどれも
大したことでは
なかったのだが

あの頃は事情が
違っていた

同僚の無類な嫉妬

「お前さん、お前さんの態度の悪さ」

本来のない
尾巻さんの目録

それやが、あんな子
前頭は、これの
死地への軍が出し

多岐な時間には
誰かが頼むところまで

私の中に、お前さんの姿が
消えるには、お前さんが
死ななければならぬ

何もなし

どうでも良かった

尾巻さんから逃げて

この世界から逃げて

お前さん、お前さんが死なないうちに

これが結局



こうして
この人の腕の中に

倒れ戻ってしまった



……

……

……

……

……

……

……

……

……



ああ……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

もっと
飲み込んでよ！
まだ全然
足りない……

……無理
じゃない……

……本当
無理……



アンタラで生きてた間に
自分と良い子だった
みたいじゃん！ッ

……そういえば
オマエもさ
ッ

は、アッ！

一気に前まで
入れてくれた

……アツ
お前さんだね！

いやあッ……

……オマエが殺してきた
人間の命元を調べてみたよ

それが各自編いも編いで
過去に何が起ったの抜け道様まで
算を免れた悪人ばかりです

……何でそんな事をしてるのか
……何でそんな事をしてるのか

そんな奴らの犠牲になつた
力持たさる者があるの位は
多々当然で許せぬ

……何でそんな事をしてるのか
……何でそんな事をしてるのか



ッ！！

……何でそんな事をしてるのか
……何でそんな事をしてるのか



……何でそんな事をしてるのか
……何でそんな事をしてるのか

僕もどんな美談であれ
事実を捻じ曲げる
気はないよ



……何でそんな事をしてるのか
……何でそんな事をしてるのか

手を染めたのは
事実ですから……

……だから
何だと言うんですか……



そんなオマエが
ここまで身を喰とす前に

僕の元には
頼りたいとか

一度だって
思わなかったの？

私達の



あの顔色々あって
ズタボロになった
オマエがさあ

私達の関係は

人並みの辛さを
感じがってたから

……

はくはく手放して
あげたのに



ほんっつとに……

悔惜な後悔だよねえ

始まりこそ
影の紙め合いだった

けれど深い傷口は
いつの間にか奥へ奥へと
この人の侵入を許してしまい
それを自覚する度
思い知らされた

またこの世界に
戻って来る時は

真っ先に僕を
頼ってくるかと
思ってたのにさ

私達の関係は

互いの心は知るほど遠くは
離れていく

おんなのこは
おんなのこを
喰らう



私がこのまま……
死ぬの……
だめ……です

お……
おにならぬ……
お……

お……
お……
お……

お……
お……
お……

お……
お……
お……

お……
お……
お……

お……
お……
お……

お……
お……
お……



五条……
情は……

こんな卑屈な風情に
一生を縛られて良い
存在ではない筈……

アナタがすべき……
決断を……



「オマエは本当に
優しいよね
いつだって僕の事を
考えてくれるんだ」

こんな仕打ちも
されても尚

「でもごめんね
七海」

僕ももう
オマエを

「一説と
離す気はないよ」



!?

あ

あ...っ

アア...ツツ!!

クッ
カッ

クッ
カッ

クッ
カッ

クッ
カッ

クッ
カッ

あははっ！
イッたイッた！

ああ……す……
この感触……

これが子宮でしょ？

赤ちゃんのお部屋だね♡

子宮の奥を往き込めば

本当に妊娠してしまうんだよ

初めての感覚に

体がびっくり
しちゃったかな？

おめでと七海♡

動いてないのに
漏れたの？オマエ

七海

ヒッヒッ

ヒッヒッ

ヒッヒッ



やあ…うわい…うわい…

おのれ

おのれ

ああ…アアアアアア!!

その

う、あ…ア、

あつ…きもちのいいツツ!!

（心）を受け入れる感覚

やだっ

やだああああツツ!!

ヤツ…ああアツ!

五条さま、…アツ!

止まって、え…ツ

あ…ツツ

アアア!!

あつ!!

はあ…ツ

アツ

アツ

アツ

〜ああああツツ?!

アツ



何かが起きているかな

何事か起きています

オマエも
寝込んでるね…っ

困らなくても
あげるから…っ

止まらなさい

「アッ、アッ、アッ、アッ…」
射撃の射撃…っ

命の懸念か

あーあーあー
僕の帽子残さず
取りとって…っ

このまま
受刑させて…
奉ちやん作やうわ…っ

**この人が何してる
理由を説明しろ**

この深きまの

あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー



……これだけで
良いじゃないよね？

七海……



命まではやれない

オマエの言うように
僕も自分の立場を理解
しているからね

でもそれ以外は
全部オマエの物にしてよ

だからどんなことされたって
僕は全然後悔しない

恨まれたって良い

「愛してくれなくても
良いよ……」

七瀬を僕の腕に
もたせますよ

縛り付けておける
なら何だマア……

この人は

アム……



じやーな

……おんさんだ

生かさんか

……おんさんか

静かに怒りを抑ませていた
五條さんに気づかない
フリをして

最早にその場を
離れた

おんさんで……

何もかも間違いだらけの
関係だったから

引き際くらいは
正しく有りたかった

どうも私の……おんさん
すげーに答わって

美高の存在として君と

どこかの日と昔になら
……としての良っ当な
人生を返つてほしい

それなのに

……

……

……

どうしてまた私を
取り戻そうとするの？

はぁ

ここまで啗ちた私をど
目もくれずに

どうして

アナタは

ほぁ……

はぁ……

はぁ……

アナタが見送ってきた
大勢の中の一人として

悔めに打ちさせて
くれれば良かったのに

そこまで私を



……泣いてねし

もう私に

選択肢などない



……驚いた

泣けたんですわ…

……アナタ

……さあ、体面は
お終いです

この髪を
束ねさせないと

今後のアナタの信用問題に
関わるでしょう…?





數ヶ月後





あの時！
やはり直でしたか

此の度当主様が
迎えられた御正装は…
元服調師というのには

聞くところによると
どうやら先例確定の所
知帳を引立て無理突理
番にしたらどうい

何と申かじいことを…
この五条の家に用れた御を
御も心あはれつておられたが

それにどうやらその御
情儀の学生時代からの
付き合いださうで…

先代も当時は夢を消そうと
騒動になつていたさうな…



お帰りになられて
いたのですか…？

当主が自分の家に
戻ちやいけないのかつての(笑)



あ、さうさう。
今回の福者には特別に

調中の僕の妻も
連れて来てるから

噂話に花を咲かせてくれないで
実際にその目で見てみれば良いよ



どうせなら噂話は
本人のいない所で
することだね！

この家では

どこで誰が聞き耳立ててるか
わかったもんじやないよ？

さ、悟様…ツ！！



そして、うん。



呪詛師七海

オメガベース

α

α